

## 青葉丘病院

人権センターニュースNo.121 より

(平成 26 年 1 月 17 日訪問)

平均在院日数 422 日(平成 25 年 12 月 31 日時点)

### 積極的な取組など

・前回訪問時の平均在院日数は 1,022 日(平成 21 年 11 月 30 日時点)だったが、今回は 422 日(平成 25 年 12 月 31 日時点)となっていた。

### 前回の訪問(平成 21 年 12 月)から改善されていたこと、改善されていなかったこと

食後患者が並んで薬を受け取ることについては、職員がデイルームで配るようになっていた。また、トイレ個室の扉の高さが低く、その上部にカーテンがあったことについては、天井までの高さの普通の扉になっていた。シーツ交換については患者がするようにという掲示はなく、患者からも「職員がしてくれる」との話だった。使用済みの紙おむつ等を入れるゴミ箱は患者があまり通らないところにある蓋付きのもので便臭はしなかった。

費用の徴収については「共益費」(レクリエーション費・共用図書等)、「衛生管理費」(おしぼり等)はなくなっていた。以前は日常生活必需品のいくつかのセットが A~E の 5 種類定められていたが、今回は 9 つの項目(病衣、下着と上着、タオル、療養生活用品、洗濯、預り金管理、貴重品保管、私物保管等)から必要なものを選択できるようになっていた。全てをあわせて「療養セット」2,100 円/日という選択肢もあった。

例えば以前、利用人数が最も多かった B のセットは、病衣、預り金管理費(貴重品・私物保管料を含む)、洗濯代、共益費、衛生管理費で 1,050 円/日だったが、現在は同じものを利用すると 934。以前は預り金管理費(貴重品・私物保管料を含む)、衛生管理費、共益費で 525 円/日だったが、現在は預り金管理費 189 円/日、貴重品保管料 168 円/日、衣服等私物保管料 168 円/日となり、必要なものを選択できる。

入浴については部屋ごとの順番が浴室の扉に掲示してあり、あわてて入浴しなくてもよくなっていた。入浴回数は前回原則週 2 回だったが、今回は介助が必要な患者は週 1~2 回で、それ以外の患者は週 3 回となっていた。介護に対応する浴室ができた。

### 病院全体

平成 25 年 11 月から全館禁煙になっていた。

### 人権委員会・意見箱

人権委員会は月 1 回の開催。委員長は副院長。外部委員はいない。意見箱は電話の横にあった。用紙と鉛筆もあった。投書の回収は事務次長が行い、投書内容によって人権委員会、栄養課等の担当部署に振り分けている。投書への回答は病棟に

掲示される。平成 26 年 1 月 15 日付の回答が掲示されていた。職員の接遇に関する投書への回答だった。接遇マナーの研修は年 2 回程しており、製薬会社など外部から講師に来てもらっている。

### 診察

詰所内に診察室があった。診察場所は、診察室、病室、デイルームと患者によって異なっていた。

### 金銭管理

金銭を病院に預けている患者の出金ペースは、週ごと、毎日、必要な時の 3 通りだった。病室にある鍵付きロッカーの利用料は無料。

### 面会

面会は午前 9 時から午後 5 時まで。

### 退院支援(病院側の説明)

最近の入院患者は約 3 ヶ月で退院している。65 歳以上は退院先として介護保険施設が使えるが、症状は落ち着いているが行き先のない 40~65 歳の患者の退院が難しい。施設に入っても対応困難ということで戻ってくる人もいる。退院後のフォローや外来と繋がっていることが大切で、退院した患者の行き場所としてデイケアが必要であるとの認識がある。今は他病院のデイケアを紹介しているが、将来的には本院でもつくる可能性があるし、作りたいと考えている。退院支援について地域の保健所から職員向けの説明会があった。

### 病棟について

デイルームには給茶機や洗面台があった。患者ごとに座る席が決まっていた。OTでは毎日のプログラムが決まられており、貼り出されていた。廊下にモニターカメラが設置されていて、カメラが設置されているというお知らせが掲示されている病棟もあった。

### 電話

公衆電話はデイルーム内の詰所から離れたところに設置されていた。囲いはないが、左右には仕切りがついていた。その隣に意見箱が置かれていた。「入院中の精神障害の権利に関する宣言」が掲示されていた。携帯電話は原則使用禁止とのこと。

### 2 階と 3 階について

2 階にある 2C 病棟と 2D 病棟、3 階にある 3C 病棟と 3D 病棟は、いずれもデイルームを中心に 2 つの病棟がつながっていて、患者も職員も行き来ができるようになっていた。デイルームに面して詰所があり、詰所は病棟ごとに別々になっていた。

病室は6人部屋と2人部屋が中心だった。各病室の窓にはレースのカーテンと普通のカーテンがかかっていた。病室に入ってすぐの左右に洗面台とその病室内の患者分の鍵付きロッカーがあった。ベッドごとに周りを囲うカーテン、床頭台があった。ベッド付近に衣装ケースやラジカセなどの私物を持ち込んでいる患者もいた。

それぞれの階の詰所近くに個室が2室ずつ新設されていた。外からも施錠できる。酸素や吸引の設備がついていた。窓は向かいの建物から見えないように目隠し部分が多く、天井近くにある窓からしか外の光が入らないため、少し暗い印象だった。室内にはトイレがあった。天井までの高さの囲いがついてはいたが、扉はなかった。

2C 病棟 (閉鎖 女性 精神療養 60 床)

2D 病棟 (閉鎖 女性 精神療養 60 床)

訪問時は入浴の時間帯で、桶や着替えを持って歩いている患者や入浴後ということでお茶を汲んで飲んでいる患者、デイルームの洗面台にあるドライヤーで髪を乾かしている患者がいた。広いデイルームではテレビを見る患者や患者同士で話をしていたり、オセロをしたり、職員と一緒に貼り絵をしている患者など様々だった。車椅子に座り、大きな声を出している患者は他の患者から少し離れたところにおやつが配られる時間が近づくとデイルームに患者が増えた。ラジオ体操の音にあわせて病室から出てきた患者もいた。

詰所前には車椅子の患者が数名いた。転倒防止を理由にベルトで固定されている患者が数名いた。一部の職員はその患者の横を通る際に話しかけたりして、それに対して笑顔で応えている患者もいた。詰所前に乾いたおしぼりが置かれていて、手馴れた様子できれいにたたんでいる患者がいた。

以前はトイレが男女の表示だったが女性だけの表示になっていた。温かくなる便座がついている個室もあった。

#### 患者の声

「薬は3~4年前から職員が配ってくれるようになり、並ばなくてよくなった」「話したいことはない」「毎日9:30頃と13:30頃に『(病棟から)出る時間』がある。その時間になると何人もが売店や喫煙に出て行く。他の時間も出ようと思えば出られるが、自分はだいたいその時間に出ている」「退院のことはSSTで。近くにある地域活動支援センターの職員も何度か来た」「1階の廊下の広いところに机と椅子があり、そこで他の患者と話したりする。医師がそこに来て話すこともある」「主治医とは詰所内にある診察室で話す。詰所前にある椅子に座って待つ」

3C 病棟 (閉鎖 男女 精神療養 60 床)

3D 病棟 (閉鎖 男女 精神療養 60 床)

職員によると、3D病棟では患者の年齢は40代~80代で、60代が多い。精神症状による拘束が1名、転落防止のための拘束が5名とのこと。20名が自分のお金を持っていて、月渡し3名、1週間分を渡すのは10名、それ以外の患者はお金がある時に詰所に受け取りにくる。なるべく自力で動けるような関わりになるよう気をつけているとのことだった。

9:10~16:30までの間に外出ができる。院外外出制限は2名とのことだったが、外出ノートを見たところ、行き先は「院内外出」という記載ばかりだった。

3C病棟も3D病棟も病室は男性、男性、女性...というように男女の病室が混ざって並んでいた。介護度や病状により詰所に近い方がよいか遠くても大丈夫かという判断で部屋順を決めるため、男女が隣り合うような配置になっているとのことだった。ベッド周りのカーテンは使用されている部屋とされていない部屋があった。おやつ時間が近いのかデイルームにいる患者が多かった。車椅子に固定された状態の2名の患者が詰所前で詰所に向き合う形だった。転倒防止のための固定とのこと。

#### 患者の声

「病棟から出るのは主治医が決める。家族が付いて来てくれるか職員と病院の周りを歩く」「主治医が決めて家族と一緒に外出する」「お金の管理は母がしている。洗濯物を取りに来る」「母が来た時にお金を渡してくれる」「わずかな衣服で病院にきたので、病衣を借りている」「病棟外のコンビニでおやつを買うのが楽しみ。週1回、病院1階ロビーで食べる」「外出許可が出ている」「診察は詰所の中。退院計画は聞いていない」「薬は食堂で受け取って飲む」「メニューは魚が多い」「買物は外には行けない。注文していたおやつが、午後3時にデイルームで配られる」「入院して1年、家族が迎えに来る目処が決まった」「(社会資源の情報については)一人ひとりに教えてくれる。お米をとぐ練習もする」「『帰らせて欲しいと思う』と先生に言うと退院の目処がたった」「正月は妹が家に呼んでくれて、嬉しかった。家族が一番大事。家族の中に自分のことを大事にしてくれるやさしい人がいる」

4C 病棟 (閉鎖 男女 精神一般 15:1 60 床)

デイルームにはテレビが1台あり、2名ほどの患者が見ていた。3時頃には10名ほどがラジオ体操をしていた。車椅子の人は、上半身だけを動かしていた。病室は4人部屋と2人部屋が約10室ずつあった。ベッド周りのカーテンを締め切っている患者もいたが、カーテンを開けたまま目をつむっている患者がやや多いようだった。ラジカセを持っている人もい

た。拘束帯は見なかった。トイレはきれいに使用されており異臭はなかった。

#### 患者の声

「上野芝病院やその前の病院を入れて6年。元気になって外泊ができるようになったら、退院してよいと言われている。心臓が弱く不整脈がある。外出は駅前までタバコを買いに行く。必要な時にお金を出してもらう。病院の担当者が伝票を切ってくれる。毎週1回6,000円をもらい、タバコと、パンやお菓子代に使っている。退院後は家に帰る。家には姉がいる。退院したら家の近くの総合病院精神科に通院すると言われている。入浴は週2回。ご飯は大・中・小のお椀があって、いつも大盛りを食べている。看護師とは特に仲良くはしていない。特に困ってはいない。今の状態でいい」「70代。藍野病院にも入院していた。ここに来て2ヶ月くらい。売店に行く時ぐらしか外出しない。預けているお金の中から必要な分をもらう。主にジュース代に使っている。車椅子のため入浴は週1回」「困っていることはない。看護師ができる限りしてあげると言ってくれている。退院するかと言われている。2月頃の予定。アパートへ帰る。一緒に住んではいけないが妻と娘が近所にいて晩ご飯くらいならしてあげると言ってくれている。看護師からは自立の方向でやりましょうと言われている。病院に対して言うことはない。食事は悪くない」「入院6ヶ月。外出は正月に1回だけ家に帰った。退院の話は出ている。薬の説明はない。お金は全く使っていない。入浴は週2回。食事はまあまあ、もう少し肉が欲しい。暖房はちょうどいい、冷房は寒すぎる。病院に言いたいことは特にない」「50代。入院5年。テレビを見て過ごすことが多い。入浴は週3回。家族からお金を貰っている。外出はしない。水曜はビデオの映画を見るのが楽しみ。おいしいものを食べたいが腎臓が悪いので食事制限をされている。だからこの病院にいる。家族に来てもらって外でおいしいものが食べたい。看護師はやさしい」「入院して1ヶ月ほど。外出は娘の家へ年に何回か行く。必要なものは娘が買物してくれる。退院に向けての話は出ている。入浴は週2回。看護師はやさしい。食事の味は近大病院と比べていまひとつ。薬はデイルームで飲む」「60代。デイルームでみんなといるのが楽しい。入浴は週3回。食事はきれいに食べている」「60代。通院していたが数ヶ月前から入院。入院の時の記憶はまったくない。体にじゅく瘡ができたので転院してまた帰ってきた。主治医に薬の説明を求めると薬局の方から説明された。糖尿、貧血、アレルギー、不安薬、睡眠薬などが出されているとのこと。外出は病院の敷地内のみ」「8年間入院。任意入院でこのまま病院にしようと思っている。看護師は親切。入浴は週2回。小遣いは毎週3,500円。冷暖房はちょうどいい。病院に対して望むことは特にない」「入浴は週2

回、おむつもしているのだから自分でできるが、着るほうはしてもらっている。ご飯はおいしい。退院の話は出ていない。妻が亡くなって帰る家がない。食事は普通の人と同じように肉も食べている。甘いものも食べたい。寒がりなので手袋をしないと寒い」

#### 4D病棟（閉鎖 男女 精神一般 15:1 57床）

患者の年齢層は20代から80代まで、平均年齢は50歳くらい。

個室は男性13室、女性11室で隔離室は4室。以前は女性の個室は13室あったが、そのうちの2室を隔離室にしたとのことだった。隔離室のトイレは外からは流せず、患者自身で流すようになっていた。トイレの周りには天井までの高さの囲いがあった。

個室は、トイレの水を室内からも外からも流すことができる。扉が180度開くようになっており、車椅子の患者も移動しやすいようになっていた。差額料の設定はなく、職員によると「患者の回転もいい」「ここは入院時の受け入れ病棟の役割を担っており、急性期であったり、他患とのトラブルがあった場合、この個室に入ることが多い」とのことだった。個室で寝ている女性の1人に布団が掛けられていたが、布団の隙間から拘束されているのが見えた。他にも夜間のみ拘束をしている患者もいるようだ。

外出するときは外出簿に名前と外出時刻、帰院時刻を書くようになっていた。外出から帰ってきた患者に職員がボディチェックをしていた。外出できる時間帯は、9:30~11:30、13:30~16:00。

午後2時半頃から詰所あたりに並ぶ患者や自分の席に座る患者が増えてきた。午後3時のおやつを待っていた。おやつになると職員がカップヌードルや焼きそば、牛乳等が置かれているワゴンを押して詰所から出てきて、患者の名前を呼びながら手渡していた。それを受け取った患者はみんな無言で一心に食べていた。病室で寝ている患者には職員が回って、デイルームに来るように促していた。多くの患者はおやつを楽しみにしているようだった。午後4時に点呼をとっており、そのため、午後4時近くになるとデイルームに患者がぞろぞろと出てきていた。

#### 患者の声

「月1回ある映画鑑賞会が楽しみ」「火曜日は売店に行けるのが嬉しい」「週3回、先生が病棟に来てくれる」「看護師はやさしい」「3日後に西成に退院する。この間、ケースワーカーと一緒に入るところを見学に行った」「主治医は薬の調整をしてくれる」「診察はデイルームや病室でしている」

## 検討していただきたい事項

### 職員研修を

4D 病棟では「外出したい」とサポーターに訴えていた男性患者のところに看護師が来て、「後で外出しよう」と声をかけていたが、しばらくしてからその看護師が再びやって来て、雨が降っていないにもかかわらず「雨降ってきたから今日はやめとこう」と患者に言い、その患者は「分かった」と返答し、サポーターに対してはそれ以上外出の話をしなくなった。患者に対して誠実な対応であるのか疑問に感じた。

看護師や職員の対応については、患者から「やさしい」「親切」との声がある一方で「ここは精神科やから・・・」と言いながら「上から目線の職員がいる」「やさしい対応の人もいればきつい言葉使いの人もいる」との声や、「言葉遣いがやさしい職員、きつい職員、人による。大きい声で『オイ！』と言われると怖い」「3階にいたときは、怖い、乱暴な物言いの職員がいた」「職員に質問した時に笑って対応されることがある。ばかにされていると感じる」「(入浴介助の際に)せかされる」「看護師の患者に対する接し方が病棟によって違う」との声があった。(病院:新人研修・人権擁護委員会による院内研修・外部研修等、年に数回の接遇及び人権に関する研修を行っています。今後も職員研修を継続して行い、人権感覚を高めるよう努力いたします。)

### 金銭の自己管理への支援を

金銭を病院に預けないで自己管理している患者は数名とのことで、他の病院よりも少ないようだった。また、病院に金銭を預けている患者に預けている額や残金などを聞くと「分からない」、職員や家族に「まかせている」、売店での買物は「伝票で」と言う患者が多かった。1階の外來待合近くの机や椅子のあるスペースにいた患者は「ジュース代は自分で持てる」「家族が来た時は家族の付き添いで外出して服を買う」と言っていた。もう少し、自分らしい暮らし方があると自信につながると感じた。当院でも収支明細を発行し、金銭の自己管理を増やす方向で検討していただきたい。(病院:収支明細の発行については、現在も患者からの要望があれば、その都度発行しています。また、今年度から新しいSSTの取り組みを開始しており、それが金銭の自己管理能力を高め、退院支援にも繋がると考えています。)

### 退院支援について

前回訪問時の平均在院日数は 1,022 日(平成 21 年 11 月 30 日時点)だったが、今回は 422 日(平成 25 年 12 月 31 日時点)と短くなっていた。しかし、平成 24 年 6 月 30 日時点の精神保健福祉資料によると 10 年以上の患者が 48 名(14%)、20 年以上の患

者が 42 名(13%)ということで長期在院患者が多く、「上野芝病院のときから入院している(平成 18 年に移転)」「退院の目処は聞いていない」という声も複数聞かれた。

退院への支援については、地域の保健所から職員向けの説明会があったようだ。患者からは「作業療法で一人ひとりにあった退院後の暮らしに役立つ事柄を話し合っている」「SSTで退院や地域の社会資源の話は聞く」という声もあった。その一方で「退院の目処は聞いていない」「ケースワーカーを知らない」「退院の相談は誰にしたらよいか分からない」という声もあった。PSWIは 1 名が辞めたところで、2 名だった。(病院:平成 26 年 2 月現在の PSW は、退職者が出たこともあり 2 名となっていました。4 月より 4 名体制となります。また、平成 26 年 4 月より精神保健及び精神保健福祉法に関する法律の一部改正による施行事項に応じた、入院患者の退院支援の強化に努めます。)

### おたずね

- ナースコールは全病棟の全ベッドごとにつけられたのでしょうか。(病院:全病棟の全ベッドへ設置されています。)
- 2 階と 3 階の病棟にはデイルーム内にパーテーションで区切られた面会や相談のできるスペースが設けられていましたが、4 階の各病棟にもそのようなスペースはあるのでしょうか？(病院:4 階の病棟にはデイルーム内にパーテーションで区切られたスペースはありません。面会や相談時には、必要に応じて面会用の可動式パーテーションでスペースの確保を行っています。)
- 保険外費用について「療養セット(2,100 円/日)」を利用している患者は何名おられるのでしょうか？(病院: 18 名。(平成 26 年 1 月 31 日現在))
- 売店の商品を伝票で購入している患者は何名おられるのでしょうか？(病院:約 150 名。(現金にて自身で購入(伝票との併用)されている方を含む))

精神保健福祉資料より(平成 25.6.30 時点)  
315 名の入院者のうち統合失調症群が 106 名(34%)、精神作用物質による精神及び行動の障害が 93 名(30%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が 85 名(27%)。入院形態は任意入院 279 名(89%)、医療保護入院 35 名(11%)。在院期間は 1 年未満が 116 名(37%)、1 年以上 5 年未満の患者が 120 名(38%)、5 年以上 10 年未満の患者が 47 名(15%)、10 年以上 20 年未満が 21 名(7%)、20 年以上 11 名(3%)。